

メッセージ：神様の御名の上にある神様の御言葉

OIC の皆様おはようございます。
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

今回のメッセージでは、ヨシュア記の続きをお話しします。**安心できる領域と慰め主（聖霊なる神様）**と題した前回のメッセージは、次の言葉で締めくくりました：私たちは聖霊なる神様の霊によって、最も困難な戦いの最中に真の平安を得ることができます。私たちは、＜コリント人への手紙 I 10 章 13 節＞に、誘惑に陥ったときの助け手としての約束があります。慰め主（聖霊なる神様）は、イエス様を私たちにとってより現実的な存在にしてください。

聖霊なる神様の力強い臨在は、私たちがイエス様のものであるというさらに大きな証しを意味します！聖霊なる神様が力強く存在するときはいつでも、私はよくイエス様の御名をささやいている自分自身に気づきます。！そして、そのことは、私にとってとても慰めになっています。

今日のメッセージは、ギブオンの民がイスラエルの民に立ち向かうというものです。私たちは 4 つの力強い真実を学びます。

- 1) 旧約聖書は、神様の命令が指導者たちによって守られなかったり、従わなかったりしたときに、神様による独特な行動や予期せぬ決断をどのように説明しているのでしょうか。
- 2) 人類のための神様の永遠の愛が、聖なる国イスラエルの神様に世界の他の人々を引きつけるために、カナンを滅ぼすことがどのように必要となったのでしょうか。
- 3) 神様のご性質が、どのように御名よりも御言葉を優先させたのでしょうか！
- 4) このことがどのように今日、神様が御子イエス様に関してなさることなのでしょう。

【1】．旧約聖書 - 神の予期せぬ行動

＜ヨシュア記 9 章 1 節-2 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 9 章 1 節-2 節＞

1・2 さて、エリコでの出来事を耳にした周辺国の王たちは、さっそく連合し、ヨシュアとイスラエル軍に全力を挙げて対抗しようとしていました。ヨルダン川の西側で、北はレバノン山脈までの地中海沿岸に住む、ヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちでした。

21 世紀の私たちにとって、古代社会にメッセンジャーネットワークがあったとは信じがたいように思えます。聖書を読んでいくと、これらのほとんどは、古代世界の土地の王が送り出した 1 人の使者であったことがわかります。5 つの大国は常に戦争を想定していました。これら 5 つの大国はエジプト帝国、ヒッタイト帝国、ミタンニ帝国、アッシリア帝国、バビロニア帝国です。神様はアブラハムを遣わして選ばれた民イスラエルを創造されたとき、アブラハムをそれぞれの対立を抱えた国々の真ん中に遣わされました。神様がアブラハムに約束した土地、カナンへのイスラエルの帰還は、中近東にあるすべての王国に関わることになります。エリコとアイの陥落のメッセージは、彼らに危機感を創造させました。したがって、＜ヨシュア記 9 章 2 節＞でこのように書かれています。

＜ヨシュア記 9 章 2 節＞

2 さて、エリコでの出来事を耳にした周辺国の王たちは、さっそく連合し、ヨシュアとイスラエル軍に全力を挙げて対抗しようとしていました。

ヒビ人部族のギブオン人が策略を企てる

＜ヨシュア記 9 章 3 節-7 節＞を読みます。

<ヨシュア記 9 章 3 節-7 節>

3 -5 しかしギブオンの住民は、エリコとアイでの一部始終を聞いて、何とか生き延びようと策略を巡らし、使者をヨシュアのもとへ送りました。使者の一行は、いかにも遠い国から旅して来たかのように、ぼろぼろの服を着て、繕ったくつをはき、風雨にさらされた袋と、つぎはぎだらけのぶどう酒の皮袋と、かび臭い乾ききったパンをろばに積んでいました。

6 一行はギルガルのイスラエルの陣営に着くと、ヨシュアと人々にこう言ったのです。「私どもは、友好条約を結んでいただきたくて、遠い国からまいりました。」

7 人々は、このヒビ人たちに答えました。「あなたたちがこの近くに住んでいないという確証はない。このあたりの住民を滅ぼせと主から命じられている以上、条約を結ぶわけにはいかない。」

【2】．カナン人絶滅と世界への慈悲の使命

約束の地に入ったヨシュアの使命には、その地に住むすべての民族を征服し、絶滅させることも含まれていました！このことを理解するために、神様が指導者ヨシュアに与えられた指示<ヨシュア 6 章 17 節>に戻ってみましょう。

<ヨシュア 6 章 17 節>

住民はみな滅ぼせ。だが娼婦ラハブと、その家の中の者たちは助けなさい。ラハブはわれわれの偵察者をかくまってくれたからだ。

では、荒野でのイスラエルの歴史と彼らの性格、そしてその行動が神様にどのような影響を与えたかをさらに振り返ってみましょう。神様はカナン人の罪がイスラエルを汚すことを知っておられました。イスラエルの民は、エジプトで学んだかつての偶像崇拜の罪に対して、すでにほとんど抵抗を示しませんでした。私たちは、イスラエルの民がヨルダン川に到達する前にこのことを見ました。モーセは山で神様の聖なる掟を受け取りましたが、民衆は焦りから金の子牛を拝むようになりました。イスラエルの民は金の子牛を自分たちの神と呼び、その神を主と呼んで祭りを祝いました。<出エジプト記 32 章 5 節-7 節>を読みます。

<出エジプト記 32 章 5 節-7 節>

5 アロンはこれを見て、子牛の前に祭壇を築いて人々に告げました。「明日は主のために盛大な祝いをしよう。」

6 彼らは次の日、朝早く起き、子牛の像に、焼き尽くすいけにえと和解のいけにえとをささげました。そのあと、彼らは座り込んで食べたり飲んだりし、乱痴気騒ぎに興じました。

7 それを知った主は、モーセに命じました。「急いで山を下りなさい。あなたがエジプトから連れ出した者たちが、かつてなことを始めている。目に余る有様だ。

だから、私たちの側から歴史を見ると、神様は、周囲の罪人たちによる大きな誘惑の試練の中で、御自分の名を聖なるものとするために選ばれた民を信頼することができませんでした。

モーセが神様の戒めを石に刻んでシナイ山から降りてきたとき、モーセは怒りにまかせて罪を犯したイスラエルの民に向かってそれを投げつけ、粉々にしました。モーセが新しい石板を切り出した後、神様はこの新しい石板に再び聖なる戒めを書き記されました。このように、神様は頑固なイスラエルの人々に具体的な命令を与えていました。 <出エジプト記 34 章 11 節-14 節>を読みます。

<出エジプト記 34 章 11 節-14 節>

11 契約の相手としてのあなたの義務は、わたしの戒めをすべて守ることである。そうすれば、あなたの前からエモリ人、カナン人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払う。

12 目指す約束の国へ着いたら、そこの住民と決して妥協しないよう、くれぐれも気をつけなさい。一度でも妥協すれば、知らず知らずのうちに、彼らの悪習に染まってしまうからだ。

13 異教の祭壇や礼拝用の石柱などは取り壊しなさい。偶像も切り倒しなさい。

14 わたし以外に、どんな神々も拝んではならない。わたしは絶対の忠誠と、心からの献身を求める神である。

ヨシュアが約束の地を征服したとき、神様はすべての異教の汚れた民を殺すように命じられました。そして、これらの異教の民と契約はしないように命じられました。つまり、完全な神様への従順では、イスラエルが占領したどの都市にも生存者がいないまま、ヨシュアのカナン征服が終わったことになります。しかし今、＜ヨシュア記 9 章 7 節-11 節＞に、狡猾なギブオン人のことを読みます。

＜ヨシュア記 9 章 7 節-11 節＞

7 人々は、このヒビ人たちに答えました。「あなたたちがこの近くに住んでいないという確証はない。このあたりの住民を滅ぼせと主から命じられている以上、条約を結ぶわけにはいかない。」

8 「私どもを奴隷にしてくださってもけっこうです。」 「それにしても、あなたたちはいったい何者だ。どこから来たのか」とヨシュアは尋ねました。

9 「私どもは遠い国からまいりました。あなたの神、主の偉大なお力と、エジプトでなさったすべてのことは知っております。

10 それに、あなたがエモリ人の二人の王、あのヘシュボンの王シホンとバシヤンの王オグとを、どんな目に会わせられたかもよく知っております。

11 それで、私どもの長老や住民がこう言うのです。『さあ、長旅の用意をして、イスラエルの人々を訪ねてくれ。そして、奴隷になると申し上げて、和平を求めて来るように』と。

さて、おなじみの一連の出来事が繰り返されます。神様の助言を求めないとき、それは私たちにとって「よくあること」なのです。神様に任命された指導者ヨシュアとその兵士たちは、ギブオン人が真実を語っているかどうかを神様に尋ねませんでした。ギブオン人の巧みなごまかしによって、ヨシュアはギブオン人の生存を認めました。

神様は異教の文化と社会の絶滅をカナンの地に限定していたことに留意してください。

イスラエルは神様から、すべての罪深い人類に宣戦布告するように命じられていませんでした。神様の意図は、救いのために人類を聖なる民イスラエルに引き寄せ、すべての国々に広げていくことでした。もし神様の民が神様の聖なる御性質を示さなかったとしたら人類は地球上で希望がありませんでした。他の国々は、創造主との関係を取り戻すために彼らを惹きつけるものは何もありませんでした。神様のご計画は、これまでも、そしてこれからも、世界のすべての国と民族の救いのはたらきです。神様の目標は、ヒッタイト帝国、ミタンニ帝国、アッシリア帝国、バビロニア帝国、エジプト帝国といった世界の帝国をイスラエルの神様への信仰による救いに引きつけるために、カナンを絶滅させることでした。使徒パウロが＜ローマ人への手紙 11 章 33 節＞でこう書きました。

＜ローマ人への手紙 11 章 33 節＞

ああ、なんとすばらしい神を、私たちは信じていることでしょうか。その知恵と知識と富は、なんと豊かなことでしょうか。神のなされる方法を理解することなど、とうていできません。また、いったいだれが、主から報いがいただけるほど十分に主にささげましたか。

クリスチャンとして、あなたは宣誓や誓いを守ることが私たち全員にどのように当てはまるかを知るためにこの説教者を必要とするべきではありません。キリスト教で最も一般的な誓いは結婚です。新約聖書は＜コリント人への手紙 II 5 章 19 節-21 節＞にこう記しています。

＜コリント II 5 章 19 節-21 節＞

19 つまり、キリストによって、この世をご自分と和解させ、その罪を数え立てずに、かえって帳消しにしてくださったのです。これが、人々に伝えるようにと私たちにゆだねられた、すばらしい知らせです。

20 こういうわけで、私たちはキリストの大使です。神様が、私たちの口を通して語りかけてくださるのです。キリストが懇願しておられるかのように、キリストに代わって、あなたがたにお願いします。どうか、差し出された愛を拒まず、神様と和解してください。

21 それは神様が、罪のないキリストに私たちの罪を負わせ、それと引き換えに、私たちに恵みを注いでくださったのですから。

もし私たちが神聖なキリストのようでないなら、どうして罪人が神様のもとに来るようにと私達の懇願に耳を傾けるでしょうか？<マタイの福音書 5 章 13 節-15 節>でイエス様が説かれたとおりです。

<マタイの福音書 5 章 13 節-15 節>

13 あなたがたは地の塩です。もしあなたがたが塩けをなくしてしまったら、この世はどうなるでしょう。あなたがたも無用のものとして外に捨てられ、人々に踏みつけられてしまうのです。

14 あなたがたは世の光です。丘の上にある町は夜になると灯がともし、だれにもよく見えるようになります。

15 ・ (16) あなたがたの光を隠してはいけません。すべての人のために輝かせなさい。だれにも見えるように、あなたがたの良い行いを輝かせなさい。そうすれば、人々がそれを見て、天におられるあなたがたの父を、ほめたたえるようになるのです。

塩とは、キリストのようになるために聖霊なる神様に導かれた私たちのライフスタイルです。光とは、神様によって祝福された私たちの人生における神聖さのことです！

個人伝道と和解についての注釈

パウロが<コリント人への手紙Ⅱ 5 章 19 節>で用いている言葉の意味を分析し、解釈してみましょう。

<コリント人への手紙Ⅱ 5 章 19 節>

19 つまり、キリストによって、この世をご自分と和解させ、その罪を数え立てずに、かえって帳消しにくださったのです。これが、人々に伝えるようにと私たちにゆだねられた、すばらしい知らせです。

そして<コリント人への手紙Ⅱ 5 章 20 節>

20 こういうわけで、私たちはキリストの大使です。神様が、私たちの口を通して語りかけてくださるのです。キリストが懇願しておられるかのように、キリストに代わって、あなたがたにお願いします。どうか、差し出された愛を拒まず、神様と和解してください。

世をご自身と和解させるとは、アダムとエバがエデンの園で罪を犯したとき、人類が神様との関係から遠ざかったことを指しています。聖書は「あなたの」でも「彼の」でもなく、「彼らの」罪と言っています。これは、世をご自分と和解させるという考えに合致します。しかし、罪人を和解させるという個人的な伝道には、このような懇願という表現は合いません。なぜなら、罪人は以前から神様と共にあったわけではないからでした！それゆえ、キリストの大使として、私たちは罪人に「神様のもとに来なさい！」と嘆願します。「和解しなさい」とか「戻ってきなさい」とは言いません。

ギブオン人はイスラエルを騙す

<ヨシュア記 8 章 9 節-15 節>を読みます。

<ヨシュア記 8 章 9 節-15 節>

9 「私どもは遠い国からまいりました。あなたの神、主の偉大なお力と、エジプトでなされたすべてのことは知っております。

- 10 それに、あなたがエモリ人の二人の王、あのヘシュボンの王シホンとバシヤンの王オグとを、どんな目に会わせられたかもよく知っております。
- 11 それで、私どもの長老や住民がこう言うのです。『さあ、長旅の用意をして、イスラエルの人々を訪ねてくれ。そして、奴隷になると申し上げて、和平を求めて来るように』と。
- 12 このパンなど、出発した時には焼き立てのほかほかでしたが、今はごらんのとおり、すっかりひからびて、かび臭くなっております。
- 13 このぶどう酒の皮袋も新品でしたが、今は古びて、破れてしまっておりますし、着物もくつも、難儀な長旅ですっかりぼろぼろになってしまいました。」
- 14・15 このことばに、ヨシュアもほかの指導者たちも、とうとうその一行を信用し、主の指示を仰ぐこともせず、和を講じてしまったのです。そして、厳粛な誓いを立てて協定を結びました。

おっと...私はイエス様に祈るのを忘れていました。

＜ヨシュア記 8 章 15 節＞に

ヨシュアの率いるイスラエル軍は、さんざん痛めつけられたように見せかけ、いっせいに荒野へ退却しました。

＜出エジプト記 34 章 12 節＞において、ヨシュアの和平条約や契約は神様の命令に背くものでした。

＜出エジプト記 34 章 12 節＞

目指す約束の国へ着いたら、その住民と決して妥協しないよう、くれぐれも気をつけなさい。一度でも妥協すれば、知らず知らずのうちに、彼らの悪習に染まってしまうからだ。

もちろん、ヨシュアは、ギブオン人がカナンの外から来たというトリックや策略を信じていたので、自分が神様に不従順な行動をしていることを知りませんでした。しかし、ヨシュアは祈ることを忘れていました。

スーパーで買い物をしているときに食べ物を忘れたら、イエス様に私はこう言うかもしれません。：「おっと、私はイエス様に祈るのを忘れてた！」しかし、もし私が、変化し続ける私の人生における大きな曲がり角について祈ることを忘れたとしたら.....そう、「おっと」はふさわしくありません！

ブルース牧師の祈りの秘訣

- 1) 可能な限り、1 日中イエス様と話す。イエス様に大谷のホームランや円安のことを話す。イエス様はあなたの人間的な経験に興味がない「人間」になったものではありません。
- 2) 短い時間でも長い時間でも、毎日、祈りのクローゼットでイエス様と 2 人きりの時間を持つこと。
- 3) 祈りながら進む。電車や路上で誘惑が起こったら、祈りのクローゼットまで待つことはできない。イエス様との日常会話に慣れているクリスチャンは、すぐにイエス様に助けを求めることができる！

真実が明らかになる

＜ヨシュア記 9 章 16 節-18 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 9 章 16 節-18 節＞

- 16 それから三日たって、彼らが近くの者だという事実が明らかになりました。
- 17 イスラエル軍は直ちに調査を開始し、三日目に彼らの町々に踏み込みました。その町の名は、ギブオン、ケフィラ、ベエロテ、キルヤテ・エアリムです。

18 しかし、イスラエル軍は彼らを攻撃しませんでした。イスラエルの指導者たちが、先に主にかけて誓っていたからです。しかし、治まらないのは会衆で、協定を結んだことで、指導者たちに不平を鳴らしました。

ギブオン人はカナンにいました。さて、イスラエルの指導者たちは、兵士たちがギブオン人を殺すことを拒否したときに不平を言う民衆に、真のリーダーシップを発揮しました。

【3.】神様の御性質 -神様の御名の上にある神様の御言葉

イスラエルの指導者たちは、神様の律法よりも神様の御性質を考えていました！神様の命令よりも。＜ヨシュア記 9 章 18 節-21 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 9 章 18 節-21 節＞

18 しかし、イスラエル軍は彼らを攻撃しませんでした。イスラエルの指導者たちが、先に主にかけて誓っていたからです。しかし、治まらないのは会衆で、協定を結んだことで、指導者たちに不平を鳴らしました。

19 指導者たちは言いました。「われわれはイスラエルの神、主の前で、彼らに手を下さないと誓ってしまったのだ。だから手出しはしないでくれ。

20 どうしても生かしてやらなければならないのだ。もし誓いを破れば、主の怒りが下る。」

21 こういうわけで、ギブオンの住民は、イスラエル人の奴隷として、たきぎを割ったり、水をくんだりして暮らすことになったのです。

指導者達は、（19 節）で「われわれはイスラエルの神、主の前で、彼らに手を下さないと誓ってしまったのだ。だから手出しはしないでくれ。」と神様の御前での誓いの重みを悟りました。

旧約聖書の神様の御前での誓い

指導者たちが「主の御前で」と言ったとき、彼ら、あるいはモーセに代わってヨシュアが契約の箱に近づき、ギブオン人と誓いを立てたに違いありません。神様はモーセに、契約の箱のケルビム（天使の像）の間に住まわれると約束されました。＜出エジプト記 25 章 22 節＞にはこうあります。

＜出エジプト記 25 章 22 節＞

わたしはそこであなたに会い、ケルビムにはさまれた『恵みの座』からあなたと語る。箱にはわたしの契約のおきてを納める。わたしはそこから、イスラエルの人々に命じることをあなたに伝える。

彼らは神様の御前で誓いを立てましたが、神様の助言を求めなかったもので、神様はギブオン人についてイスラエルの民に話しませんでした。

神様の御名の上にある神様の御言葉

＜詩編 138 篇 2 節＞

礼拝するたびにあなたの宮に向かい、そのすべての恵みと真実を思い起こして 感謝をささげます。あなたは、ご自身の名にかけて、約束を守るお方ですから。

この聖書の箇所は、なぜ神様が最初に奇妙に思われた方法で行動されたかを裏付けられる、あるいは明らかにされます。約束の地から悪を絶滅させるという神様の権威と計画は、神様による明白な次のステップの決断のように思われました。しかし違います。

神様の御言葉：あなたはあなたの御言葉をあなたのすべての御名にまさるものとされた」とは、わたしたちはここにヨシュアとギブオン人に神様の御性質が具体的に啓示されたことを意味します。神様が任命した指導者たちが、神様の御前で誓いを立てたとき、この平和条約とは、神様が

任命した指導者たちの誓いはあたかも神様が御自身で語られたのと同じ神様の言葉になるのです。その誓い、平和条約は、こうして天において、神様の御名に関するこれまでの命令よりも上に掲げられています。……あらゆる方法で、神様の御言葉をすべての神様の御名よりも上にあげました。そこで神様はギブオン人に御言葉を授けられました。神様はそれを破ることはできませんでした！神様はご自身の民を救うかのように、ギブオン人を守るためにイスラエル人を遣わされるヨシュア記第9章で、このことが試されるのをわたしたちはみます。

この条約は守られなければなりません。だからヨシュアは平和条約の誓いを守っています。しかし、ヨシュアは私たちにとっては当たり前のような奇妙な質問をしています。

＜ヨシュア記9章22節-25節＞を読みます。

＜ヨシュア記9章22節-25節＞

22 ヨシュアは彼らを呼んで、問いました。「あなたたちは、私たちの近くに住んでいながら、なぜ遠い国から来たなどと、だますようなまねをしたのか。

23 今にのろいが降りかかり、あなたたちはこの後いつまでも、私たちの奴隷となり、私たちの神に仕えて、たきぎを割り、水をくむことになるだろう。」

24 「私どもがあんなことをしたのは、イスラエルの神様が忠実なしもベモーセ様に、『この全土を征服し、住民を皆殺しにしろ』とお命じになったことを、はっきり知っていたからです。殺されるのが怖かったのです。お赦してください。

25 どうぞ、どのようにでもお気のすむようになさってください。」

すべてのカナン人を処刑するというヨシュアの聖なる仕事は、彼らが人間であることをヨシュアに忘れさせていたのでしょうか？ ヨシュアは、敵を殺すという単純な兵士の視点だけで、すべてを見ていたのでしょうか？ 私たちには決してわからないでしょう！ しかし神様は、創造されたすべての生けるものに、生き続けたいという願いを与えられました。

ギブオン人は、神様は＜ヨシュア記9章.24節＞の神様の御言葉を成就されると信じていました。

＜ヨシュア記9章.24節＞

24 「私どもがあんなことをしたのは、イスラエルの神様が忠実なしもベモーセ様に、『この全土を征服し、住民を皆殺しにしろ』とお命じになったことを、はっきり知っていたからです。殺されるのが怖かったのです。お赦してください。

私たちはそれを信仰とは呼べないかもしれませんが、ギブオン人はアブラハム、イサク、ヤコブの神様について信じたことを行動に移しました！それから＜ヨシュア記9章.24節＞のヨシュアへの彼らの答えは、「だから私たちは、あなたたちのために命の危険にさらされることを大いに恐れた。」とは私に明白にそう思えます：賢人ソロモンが＜伝道者の書9章4節＞で書いているように。

＜伝道者の書9章4節＞

生きている人にだけ、希望があります。「死んだライオンより、生きている犬のほうがましだ」と言われるとおりです。

するとギブオン人は＜ヨシュア記9章.24節＞で、「今、私たちはあなたのなすがままです。」と言います。

ヨシュアが正しいと思ったことは＜ヨシュア記9章26節-27節＞でした。

＜ヨシュア記9章26節-27節＞

26 そこでヨシュアは、彼らを殺すことを禁じました。

27 彼らはイスラエル人のため、また、やがて主の選ぶ場所に築かれる祭壇のためにたきぎを割り、水をくむ者となりました。それは今も続いています。

＜ヨシュア記 9 章 27 節＞に言っているように、ギブオン人はカナン部の部族として、イスラエルの保護下にある僕としての役割を受け入れました。そしてそれが今日まで続いています！ヨシュア記の最後の章は、おそらく大祭司ピネアスによって、その約 100 年後か紀元前 1300 年に書かれました。だから＜ヨシュア記 9 章 27 節＞には、「そしてそれが今日まで続いている」と書かれています！

【4.】神様の御名の上にある神様の御言葉- イエス様の御名は全ての名の上にある’ クリスマンとしての私たちの交わりは、父なる神様と、肉（人間のからだ）となられた御言葉であられる神様の御子イエス様とです。聖書は＜詩篇 138 篇. 2 節＞にこう言っています。

＜詩篇 138 篇. 2 節＞

礼拝するたびにあなたの宮に向かい、そのすべての恵みと真実を思い起こして 感謝をささげます。あなたは、ご自身の名にかけて、約束を守るお方ですから。

これは、神様の誓いと神様の約束が神様の御名よりもあがめられているという意味を含んでいます。イエス様は真理です。キリストが来られて以来、神様は神様の御言葉であられるイエス様の御名を、他のすべての名の上にあがめられておられます！聖書の新約聖書には、使徒ペテロが＜使徒の働き 4 章 12 節＞で説いたように、父なる神様という神様の御名の上という、ある意味で、次のように記されています。

＜使徒の働き 4 章 12 節＞

この方以外には、だれによっても救われません。天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです。

これは、イエス様の御名がその意味において神様の御名の上にあるための神様の計画です。イエス様はまたこのことをイエス様を通さず父なる神様に近づこうとしたユダヤ人たちに明確にされました。＜ヨハネの福音書 3 章 35 節-36 節＞を読みます。

＜ヨハネの福音書 3 章 35 節-36 節＞

35 父なる神はこの方を愛し、万物をこの方にお与えになりました。

36 この方は神の御子なのです。この方に救っていただけると信じる者はだれでも、永遠のいのちを得ます。しかし、この方に従わない者は、天国を見ることができないばかりか、神の怒りがその人の上にとどまるのです。

そして＜ヨハネの福音書 10 章 29 節-30 節＞

＜ヨハネの福音書 10 章 29 節-30 節＞

29 父がわたしに下さった群れなのですから。父はだれよりも力があります。わたしの羊をさらうことなど、だれにもできません。

30 わたしと父とは一つです。

このように、父なる神様と神様の御子の一体性は、イエス様が来られて以来、父なる神様がイエス様の御名を、YHWH（主なる神様）、アドナイ、エロヒムなど、これまでのいかなる神様の御名よりも高くすることを選ばれたことを明確にしています。

新約聖書が＜ピリピ人への手紙 2 章 5 節-11 節＞で宣言している通りです。

＜ピリピ人への手紙 2 章 5 節-11 節＞

5 私たちに対するキリスト・イエスの態度を見なさい。
6 キリストは神であられるのに、神としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。
7 かって、その偉大な力と栄光を捨てて奴隷の姿をとり、人間と同じになりました。
8 そればかりか、さらに自分を低くし、犯罪人と同じようになって十字架上で死なれたのです。
9 しかし、それゆえに、神はキリストを高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。
10 それは、その御名のもとに、すべてのものが天でも地でもひざまずき、
11 すべての口が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

イエス様は世の終わりの時、父なる神様にすべてのイエス様の羊とイエス様の王国を与えられる父なる神様と神様の御子の関係に私達が不思議に感じることはなんでも、すべては宇宙全体に明確にされるでしょう。これは使徒パウロが＜コリント人への手紙Ⅰ 15. 章 23 節-28 節＞に書いています。

＜コリント人への手紙Ⅰ 15. 章 23 節-28 節＞

23 ただし、その順番があります。最初にキリストが復活なさいました。次に、キリストが帰って来られる時に、キリストに属する全員が復活します。
24 そのあとで、終わりが来ます。その時、キリストはあらゆる敵を滅ぼし、この世界を父なる神にお渡しになります。
25 王としてキリストが支配なさるのは、敵を全滅させる時までだからです。
26 その敵の中には、究極の敵である死も入っています。死もまた滅ぼされなければならないのです。
27 というのは、キリストには、すべてのものを支配する権威が、父なる神から授けられているからです。ただ、すべてのものと言っても、この支配権をお授けになった父なる神だけは、もちろんキリストの支配下に含まれません。
28 キリストはあらゆる敵との戦いに勝利を収めると、神の子として、ご自分を父なる神の支配におゆだねになります。それは、子にすべてを征服する力をお授けになった神様が、最高の存在となられるためです。

はい、聖書はどこにでもすべてのことを記載しています！そして、そうあるべきです！私たちがイエス様の牧場にいる羊であることを喜びましょう。そうでない方は、今すぐ私たち全員と一緒に祈り、リフトサインで祈りを求めてください。.

祈りましょう！
{聖餐式へ}